プログラム 11 月 14 日（土）

第 1 会場　5F エミネンスホール

9:00～9:20　会長挨拶・講演

PL　研鑽！皮膚科プロフェッショナリズム
朝比奈 昭彦（東京慈恵会医大）

9:30～11:30　シンポジウム 1【進化する薬疹診療】

座長：渡辺 秀晃（昭和医大横浜市北部病院）
石地 尚興（すぎのこ皮ふ科クリニック）

SY1-1　統計からみた薬疹診療のトピックス
福田 英嗣（東邦大医療センター大橋病院）

SY1-2　SJS/TEN 診療の進化と皮膚科医の役割
渡邉 裕子（横浜市立大）

SY1-3　抗体薬物複合体による皮膚障害～エンホルツマブ・ベドチンを中心に～
勝田 倫江（東京慈恵会医大）

SY1-4　irAE の病態と管理
沖山 奈緒子（東京科学大）

13:00～15:00　スポンサードシンポジウム 1【乾癬とその関連疾患～病態解明と治療法の進歩に刮目せよ～】

座長：朝比奈 昭彦（東京慈恵会医大）
大久保 ゆかり（東京医大）

SSY1-1　炎症を経験した表皮からみた乾癬の慢性化
柴田 彩（東京大）

SSY1-2　乾癬性関節炎：Occult vs Clinical
川合 聡史（聖路加国際病院リウマチ膠原病センター）

SSY1-3　汎発性膿疱性乾癬：素因 vs 環境因子
藤田 英樹（日本大）

SSY1-4　化膿性汗腺炎：自然免疫 vs 感染症
石塚 洋典（大阪大）

共催：アッヴィ合同会社

15:20～16:20 アフターヌーンセミナー 1【乾癬における治療戦略を再考する】

座長：藤田 英樹（日本大）

AS1-1 IL-23 阻害とこれからの乾癬診療
髙橋 岳浩（東北大ヘルススパン研究センター）

AS1-2 乾癬治療薬における画竜点睛～治療最適化における決定的要素～
杉浦 一充（藤田医大）

共催：ヤンセンファーマ株式会社

16:30～17:30 特別講演 1

座長：朝比奈 昭彦（東京慈恵会医大）

SL1 ゲノム医療に向けた基盤構築の現状と課題
徳永 勝士（国立健康危機管理研究機構・国立国際医療研究所・ゲノム医科学プロジェクト）

17:40～18:40 招待講演

座長：太田 有史（東京慈恵会医大）

IL Neurofibromatosis type 1：Skin-related Issues
David Viskochil（University of Utah, Department of Pediatrics, Division of Medical Genetics）

18:40～18:55 写真撮影

第 2 会場 5F コンコードボールルーム C

9:30～11:30 シンポジウム 2【NF1 診療の最前線～病態解明から治療戦略へ～】

座長：太田 有史（東京慈恵会医大）
谷戸 克己（佃リバーシティ皮膚科）

SY2-1 神経線維腫症 1 型の病態理解のための基礎的知見～MEK 阻害薬による臨床の新展開に向けて～
延山 嘉眞（東京慈恵会医大）

SY2-2 神経線維腫症 1 に見られる症候について
太田 有史（東京慈恵会医大）

SY2-3 小児期神経線維腫症 1 型の包括的医療
秋山 政晴（東京慈恵会医大小児科）

SY2-4 NF1 診療の最前線―骨病変への対応―
舟﨑 裕記（横浜市スポーツ医科学センター/東京慈恵会医大）

11:50〜12:50 ランチョンセミナー 1【アトピー性皮膚炎・乾癬の外用治療戦略】

座長：中原 剛士（九州大）
山﨑 文和（東海大）

LS1-1 アトピー性皮膚炎治療における外用療法の重要性を再考する
佐藤 絵美（福岡大）

LS1-2 乾癬における外用療法の意義とブイタマークリームへの期待
神谷 浩二（自治医大）

共催：鳥居薬品株式会社

13:00〜15:00 シンポジウム 3【画期的新規治療の総点検】

座長：大塚 藤男（筑波大名誉教授）
種瀬 啓士（東邦大）

SY3-1 男性型・女性型脱毛症に対する S-DSC 毛髪再生医療の開発と実践
大山 学（杏林大）

SY3-2 表皮水疱症に対する外用遺伝子治療：ベレマゲン ゲペルパベク（B-VEC）
石河 晃（東邦大名誉教授）

SY3-3 尋常性白斑における新規治療法について：JAK 阻害薬とメラノサイト含有ヒト表皮由来細胞シート（ジャスミン）等
鈴木 民夫（大森駅前皮膚科　東京都大田区）

SY3-4 抗がん薬関連爪囲血管拡張性肉芽腫に対するチモロール外用療法の有効性と安全性
渡邉 淑識（東京慈恵会医大）

15:20〜16:20 アフターヌーンセミナー 2【光線療法で広がる治療選択肢】

座長：大山 学（杏林大）
馬渕 智生（東海大）

AS2-1 三方よしの紫外線治療器〜セラビーム® UV308 mini LED〜
栗山 裕子（群馬大/早稲田の杜スキンクリニック　埼玉県本庄市）

AS2-2 転換期を迎えた光線療法！信頼できる照射機器をどう見極める？
安部 正敏（札幌皮膚科クリニック　北海道札幌市）

共催：ウシオ電機株式会社

第３会場　5F コンコードボールルーム B

9:30～10:30　教育講演 1

座長：川村 龍吉（山梨大）

EL1　皮膚からヒトを読む：日常診療に宿る研究のプロフェッショナリズム
天谷 雅行（理化学研究所生命医科学研究センター/慶應義塾大名誉教授）

10:40～11:40　教育講演 2【創傷治癒の極意～褥瘡から下腿潰瘍まで～】

座長：前川 武雄（自治医大さいたま医療センター）
太田 真由美（東京慈恵会医大）

EL2-1　下腿潰瘍
出月 健夫（NTT 東日本関東病院）

EL2-2　Clinical Indicator である褥瘡を管理する
江川 安紀子（東京慈恵会医大附属病院看護部）

11:50～12:50　ランチョンセミナー 2【有効性と安全性のバランスから考える、アトピー性皮膚炎の長期治療戦略】

座長：種瀬 啓士（東邦大）
井川 健（獨協医大）

LS2-1　マイルドではないアドトラーザ®の実力
園田 広弥（世田谷そのだ皮膚科　東京都世田谷区）

LS2-2　アトピー性皮膚炎の基礎と臨床～アドトラーザ®の上手な使い方～
伊藤 友章（東京医大）

共催：レオ ファーマ株式会社

13:00～14:00　共通講習 1【医療倫理（必修 A）】

座長：勝田 倫江（東京慈恵会医大）

共通 1　医療現場における生命倫理・臨床倫理と研究倫理
堀 誠治（東京慈恵会医大名誉教授）

14:10～15:10　共通講習 2【保険医療（必修 B）】

座長：梅澤 慶紀（東京慈恵会医大）

共通 2　健康保険制度の歴史と保険診療の理解
石田 祐一（東京慈恵会医大附属病院医療保険指導室）

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー３【Dr.夏秋＆Dr.忽那の虫滅の刃―虫現状編―】

座長：忽那 賢志（大阪大感染制御学）
夏秋 優（兵庫医大）

AS3-1　第一章　峪・床虱 再来
夏秋 優（兵庫医大）

AS3-2　第二章　マダニ媒介感染症
忽那 賢志（大阪大感染制御学）

共催：アース製薬株式会社

第４会場　5F コンコードボールルーム A

9:30～10:30　教育講演３【膠原病診療の現在地】

座長：髙橋 一夫（公立昭和病院）
神田 奈緒子（日本医大千葉北総病院）

EL3-1　筋炎診療の現在地
藤本 学（大阪大）

EL3-2　全身性硬化症（強皮症）の病態理解と治療の現在地
住田 隼一（東京大/東京大病院強皮症センター/東京大病院 SLE センター/東京大病院免疫疾患治療センター）

10:40～11:40　教育講演４【血管炎診療最前線】

座長：安齋 眞一（（株）ピーシーエルジャパン PCL 飯田橋病理・細胞診センター）
増澤 真実子（北里大）

EL4-1　皮膚血管炎について
陳 科榮（目黒陳皮膚科クリニック　東京都品川区）

EL4-2　全身性血管炎診療時の皮膚科医の役割
石黒 直子

11:50～12:50　ランチョンセミナー３【幹細胞培養上清化粧品のアップデート】

座長：川島 眞（東京女子医大名誉教授）

LS3-1　幹細胞培養上清化粧品原料〝ステム CM〟の特性とヒト塗布試験による有用性の検討
羽賀 雅俊（ロート製薬株式会社データサイエンス推進室）

LS3-2　幹細胞培養上清化粧品の使用経験と美容施術との併用効果
小林 美幸（聖心美容クリニック熱海院）

共催：ロート製薬株式会社

13:00～15:00　シンポジウム４【皮膚科領域薬剤耐性感染症と適正な抗生物質の使用法】

座長：佐藤 友隆（帝京大ちば総合医療センター）
山﨑 修（島根大）

SY4-1　Panton-Valentine leukocidin（PVL）陽性黄色ブドウ球菌による再発性癰の治療
松村 剛一（松村皮フ科　神奈川県横浜市）

SY4-2　薬剤耐性白癬菌―その現状と対策―
原田 和俊（東京医大）

SY4-3　皮膚科領域薬剤耐性感染症と適正な抗生物質の使用～抗酸菌症～
三上 万理子（横浜西口菅原皮膚科　神奈川県横浜市）

SY4-4　皮膚科領域における抗微生物薬の適正使用
堀野 哲也（東京慈恵会医大感染症内科）

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー４
【保険診療医が自由診療へ踏み出すとき―CO2 レーザー、マイクロニードル RF で始める自費外来の実践―】

座長：長谷川 敏男（順天堂大静岡病院）

AS4-1　CO_2 レーザーを今、再考する～サージカルからリサーフェシングまで～
中田 元子（M スキンクリニック　千葉県千葉市）

AS4-2　皮膚科医の新たな武器「マイクロニードル RF」を使いこなそう！―ニキビ・ニキビ痕、赤ら顔、汗管腫、脂腺増殖症への活用―
横井 彩（日本橋いろどり皮ふ科クリニック　東京都中央区）

共催：Jeisys Medical Japan 株式会社

第５会場　4F 花 A

9:30～10:30　一般演題 1【紅斑、紫斑、血管炎①】

座長：川上 民裕（川上皮膚科クリニック）
齊藤 典充（なごみ皮ふ科）

1　ミノサイクリン塩酸塩とトラニラストの併用が奏功した Morbihan 病の 1 例
奥山 隆久[1]、小倉 康晶[12]、本田 哲也[1]
[1]浜松医大、[2]市立御前崎総合病院

2　潰瘍性大腸炎患者に発症した人工肛門周囲の壊疽性膿皮症の 1 例
古橋 祥子[1]、田中 隆光[1]、鎌田 昌洋[1]、福島 慶久[2]、野澤 慶次郎[2]、落合 大樹[2]、羽賀 敏博[3]、笹島 ゆう子[3]、藤丸 麻依子[4]、小松 恭介[4]、多田 弥生[1]
[1]帝京大、[2]帝京大外科、[3]帝京大病理診断科、[4]帝京大看護部

3　前腕と大腿で異なる血管炎像を呈した VEXAS 症候群の 1 例
笹川 真帆[1]、林 航[1]、倉田 麻衣子[1]、西岡 典宏[2]、大山 学[1]
[1]杏林大、[2]杏林大腎臓・リウマチ膠原病内科

4　PR3-ANCA 陽性を認めた感染性心内膜炎に伴う感染性血管炎の 1 例
前川 真穂、吉田 憲司、橋本 由起、足立 太起、小田 采佳、種瀬 啓士、石河 晃
東邦大

5　下腿蜂窩織炎で入院中、繰り返す血便により貧血、血圧低下を認めたが、躯幹の紫斑より IgA 血管炎の診断に至り救命しえた 1 例
茂木 拓位[1]、伊藤 裕太[1]、富田 茉由香[1]、松本 梨佳[1]、浦牛原 幸治[2]、菊地 翁輝[2]、
高橋 一夫[1]
[1]公立昭和病院、[2]公立昭和病院消化器内科

6　凝固第 XIII 因子低下と消化器症状を合併し顔面にも紫斑が出現した IgA 血管炎の 1 例
久保田 太郎、矢野 優美子、三井 浩
東京逓信病院

7　血清 TARC 値の上昇を伴った好酸球性環状紅斑の 1 例
長谷川 絢加、宗元 紗和、福永 淳、森脇 真一
大阪医科薬科大

10:30〜11:30　一般演題 2【紅斑、紫斑、血管炎②、水疱症】

座長：堺 則康（東京医大）
金岡 美和（横浜市立大市民総合医療センター）

8　浅在型遠心性環状紅斑を契機に腎細胞癌の再発転移の診断を得た 1 例
柴崎 俊明、人見 勝博、加藤 有紀、福田 知雄
埼玉医大総合医療センター

9　特異疹として紫斑を呈した急性骨髄性白血病（AML）の皮膚浸潤の 1 例
梅木 玲[1]、中西 佑以子[1]、宮野 恭平[1]、伊藤 善啓[2]、常深 祐一郎[1]
[1]埼玉医大、[2]埼玉医大血液内科

10　Sjogren 症候群と診断される契機となった高 γ グロブリン血症性紫斑病
干場 健生、鈴木 大介、山田 友莉香、吉田 有瑳、塚田 遼
相模原病院

11　皮膚症状を契機に診断した寒冷凝集素症の 1 例
井上 舞[1]、権 光基[1]、田中 瑠奈[1]、大川 智子[1]、田村 慶太[2]、佐藤 格[2]、金岡 美和[1]
[1]横浜市立大附属市民総合医療センター病院、
[2]横浜市立大附属市民総合医療センター病院血液内科

12　抗 BP180 抗体価の推移が ELISA 法と CLEIA 法で乖離した水疱性類天疱瘡の 1 例
廣田 一貴[1]、橋本 隆[2]、福本 毅[1,3]
[1]神戸大、[2]大阪公立大、[3]京都府立医大

13　抗 BP230 抗体陽性の水疱性類天疱瘡に後天性血友病 A が合併した 1 例
小西 克哉[1]、安部 文人[1]、樋口 哲也[1]、中尾 三四郎[2]、清水 直美[2]
[1]東邦大医療センター佐倉病院、[2]東邦大医療センター佐倉病院血液内科

14　ペムブロリズマブ投与後に発症した水疱性類天疱瘡の 1 例
兵頭 美咲、三上 眞由、亀井 理央、千葉 馨、稲村 崇志、伊藤 祐太、唐川 大、延山 嘉眞、朝比奈 昭彦
東京慈恵会医大

11:50～12:50　ランチョンセミナー 4

座長：木村 有太子（順天堂大）

LS4　肝斑治療を再考する―トラネキサム酸治療の基礎と現在―
山本 晴代（近畿大）

共催：第一三共ヘルスケア株式会社

13:00～14:00　教育講演 5【炎症性粘膜病変診療の極意】

座長：本田 まりこ（まりこの皮フ科）
末木 博彦（昭和医大名誉教授）

EL5-1　感染症
石地 尚興（すぎのこ皮ふ科クリニック　神奈川県川崎市）

EL5-2　炎症性粘膜病変の診断と治療（非感染症）
樋口 哲也（東邦大医療センター佐倉病院）

14:10～15:10　教育講演 6

座長：伊東 慶悟（日本医大武蔵小杉病院）

EL6　専門医試験に役立つ！皮膚病理を究めよう
伊東 慶悟（日本医大武蔵小杉病院）

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー 5【アトピー性皮膚炎・円形脱毛症治療 Update 2026】

座長：坪井 良治（西新宿サテライトクリニック）
福田 知雄（埼玉医大）

AS5-1　エビデンスと実臨床から考える円形脱毛症治療
木下 美咲（杏林大）

AS5-2　小児アトピー性皮膚炎治療のアップデート ―バリシチニブで広げる治療の可能性―
吉原 重美（獨協医大小児科）

共催：日本イーライリリー株式会社

16:30～17:30　教育講演 7【皮膚科の真骨頂！】

座長：新井 達（聖路加国際病院）
梅澤 慶紀（東京慈恵会医大）

EL7-1　皮膚科のトリビア 2026
浅井 俊弥（浅井皮膚科クリニック　神奈川県横浜市）

EL7-2　Snap Diagnosis
園田 広弥（世田谷そのだ皮膚科　東京都世田谷区）

17:40～18:40　イブニングセミナー 1【炎症性皮膚疾患における最新の知見】

座長：澤田 雄宇（産業医大）

ES1-1　病態と作用機序から考える乾癬領域におけるアプレミラスト治療
野﨑 尋意（旭川医大）

ES1-2　中間薬としての存在感：乾癬？掌蹠膿疱症？
馬屋原 孝恒（川崎医大）

共催：アムジェン株式会社

第 6 会場　4F 錦

9:30～10:25　一般演題 3【湿疹・アトピー性皮膚炎①】

座長：高須 博（西大沼皮フ科クリニック）
唐川 大（東京慈恵会医大）

15　3-O-エチルアスコルビン酸による顔面のアレルギー性接触皮膚炎の 3 例
飯島 茂子、村山 佳代、高山 典子
はなみずきクリニック　茨城県牛久市

16　当科における後天性反応性穿孔性膠原線維症 35 例の検討
小泉 彩佳、船積 雅登、並木 剛、沖山 奈緒子
東京科学大

17　歯科治療により寛解した難治な異汗性湿疹の 2 例
小林 知子[1]、笠松 宏至[1]、内田 沙織[1]、西村 健太郎[1]、山内 悠大[1]、尾山 徳孝[1]、
長谷川 稔[1]、平井 行一郎[2]
[1]福井大、[2]平井皮ふ科医院　福井県越前市

18　アトピー性皮膚炎を合併した PVL 産生 MRSA による再発性皮下膿瘍に対しデュピルマブが奏効した 1 例
永井 柚衣[1]、柴田 菜那[1]、内藤 昭嘉[2]、鷲尾 健[1]
[1]神戸市立西神戸医療センター、[2]神戸市立西神戸医療センター小児科

19　動物抗原により増悪したアトピー性皮膚炎の２例
近藤 章生、千葉 裕奈子、濱崎 慎平、新井 翔、猪股 知微、松本 詩織、廣田 綾子、高橋 伸大、清水 知道、山崎 文和、馬渕 智生
東海大

20　全身療法後に発汗機能の回復を認めたアトピー性皮膚炎の２例
菅村 恵利、渡辺 大輔、大嶋 雄一郎
愛知医大

10:25～11:30　一般演題４【アトピー性皮膚炎②】

座長：加藤 雪彦（東京医大八王子医療センター）
森村 壮志（国際医療福祉大三田病院）

21　ジファミラスト軟膏を用いたアトピー性皮膚炎寛解維持期の有効性と安全性：多施設前向き研究
浅井 俊弥[1]、岡本 和良[2]、岸本 哲治[2]、松川 美幸[2]、岡本 佳菜[2]、五十嵐 敦之[3]
[1]浅井皮膚科クリニック　神奈川県横浜市、
[2]大塚製薬株式会社メディカル・アフェアーズ部、
[3]いがらし皮膚科東五反田　東京都品川区

22　日本人中等症～重症アトピー性皮膚炎患者におけるレブリキズマブの治療反応クラスターと臨床指標・TARC 経時推移の関連
鎌田 昌洋[1]、松尾 崇史[2]、Victoria Serelli Lee[2]、森崎 洋二[2]、乃村 俊史[3]
[1]帝京大、[2]日本イーライリリー、[3]筑波大

23　中等症～重症アトピー性皮膚炎患者におけるレブリキズマブ８週間隔投与の長期有効性
松尾 崇史[1]、J Silverberg[2]、V Laquer[3]、P Lio[4]、K Papp[5]、A Irvine[6]、A Blauvelt[7]、H Elmaraghy[1]、L DeLuca-Carter[1]、H Crane[1]、G Gallo[1]、E Pierce[1]、Y Ding[1]、A.S Paller[8]
[1]Lilly、[2]GWU、[3]First OC Derm、[4]Med Derm Assoc、[5]Probity Med、[6]Trinity Coll、[7]Oregon Med Res、[8]NW Univ

24　トラロキヌマブで効果不十分のアトピー性皮膚炎患者における、レブリキズマブへのスイッチ 48 週後の治療効果
早川 知里[1]、萩野 哲平[1]、佐伯 秀久[2]、藤本 栄大[3]、神田 奈緒子[1]
[1]日本医大千葉北総病院、[2]日本医大、[3]ふじもと皮フ科クリニック　千葉県船橋市

25　乳幼児・小児アトピー性皮膚炎患者を対象としたネモリズマブの国内第 III 相プラセボ対照比較試験成績
五十嵐 敦之[1]、藤澤 隆夫[2,3]、勝沼 俊雄[4]、田島 聡美[5]、森川 遼真[5]
[1]いがらし皮膚科東五反田　東京都品川区、[2]三重病院小児科、
[3]ル・シエルクリニック　三重県四日市市、[4]東京慈恵会医大小児科、[5]マルホ株式会社

26　アトピー性皮膚炎（AD）患者の乾燥皮膚に対するピュアゴールデンホホバの保湿効果
今村 耕二[1]、野村 有子[2,6]、三上 万理子[3]、向久保 寿恵[4]、常深 祐一郎[5,6]
[1]同仁医薬化工株式会社、[2]野村皮膚科医院　神奈川県横浜市、
[3]横浜西口菅原皮膚科　神奈川県横浜市、
[4]パンジー皮膚科クリニック　埼玉県さいたま市、[5]埼玉医大、
[6]NPO法人皮膚の健康研究機構

27　アトピー性皮膚炎患者の“見えない負担”と治療介入後の変化の検討
善家 由香理、高椋 翼、大竹 美乃里、三井 純雪、新井 達
聖路加国際病院

11:50～12:50　ランチョンセミナー５【アトピー性皮膚炎における効果的な外用療法について】

座長：浅井 俊弥（浅井皮膚科クリニック）
常深 祐一郎（埼玉医大）

LS5-1　プライマリケアが担うアトピー性皮膚炎診療の最前線　～小児・成人の寛解導入とモイゼルトの活用～
西尾 和倫（糀谷皮膚科　東京都大田区）

LS5-2　アトピー性皮膚炎の治療フェーズにおけるアドヒアランスの重要性とモイゼルトの臨床的位置づけ
石氏 陽三（東京慈恵会医大）

共催：大塚製薬株式会社

13:00～14:00　一般演題５【アトピー性皮膚炎③】

座長：平原 和久（平原皮ふ科）
宇賀神 つかさ（武蔵野赤十字病院）

28　頭頚部病変を有する中等症から重症のアトピー性皮膚炎患者に対するトラロキヌマブの長期有効性：５年間の ECZTEND 試験の最終報告
小寺 雅也[1]、Andreas Wollenberg[2]、Raj Chovatiya[3]、Simone Ribero[4]、
Juan Francisco Silvestre[5]、Chih-Ho Hong[6]、Andrew Blauvelt[7]
[1]JCHO中京病院、[2]Augsburg University Hospital、
[3]Rosalind Franklin University of Medicine and Science Chicago Medical School、
[4]University of Turin、[5]Hospital General Universitario Dr Balmis, ISABIAL、
[6]University of British Columbia、[7]Blauvelt Consulting, LLC

29　中等症から重症のアトピー性皮膚炎患者におけるトラロキヌマブの長期有効性：５年間の ECZTEND 試験の最終報告
伊藤 友章[1]、Andrew Blauvelt[2]、Chih-Ho Hong[3]、加藤 則人[4]、Vivian Laquer[5]、
Ketty Peris[6]、Julien Seneschal[7]、Richard B Warren[8]
[1]東京医大、[2]Blauvelt Consulting, LLC、[3]University of British Columbia、
[4]京都府立医大、[5]First OC Dermatology Research、
[6]Universita Cattolica del Sacro Cuore、[7]Hopital Saint-Andre、
[8]Northern Care Alliance NHS Foundation Trust

30 デュピルマブで効果不十分のアトピー性皮膚炎患者における、トラロキヌマブへのスイッチ 48 週後の治療効果

岩畔 千裕[1]、萩野 哲平[1]、佐伯 秀久[2]、藤本 栄大[3]、神田 奈緒子[1]
[1]日本医大千葉北総病院、[2]日本医大、[3]ふじもと皮フ科クリニック　千葉県船橋市

31 実臨床下でのアトピー性皮膚炎患者に対するトラロキヌマブの国際コホート研究における有効性及び安全性：TRACE 研究

鎌田 昌洋[1]、April Armstrong[2]、Silvia Ferrucci[3]、Jose Juan Pereyra Rodriguez[4]、Jennifer Beecker[5]、Diamant Thaci[6]
[1]帝京大、[2]David Geffen School of Medicine at UCLA、
[3]Fondazione IRCCS Ca' Granda Ospedale Maggiore Policlinico、[4]University of Sevilla、
[5]The Ottawa Hospital Research Institute、[6]University of Lubeck

32 実臨床下でのアトピー性皮膚炎患者に対するトラロキヌマブの国際コホート研究における患者報告アウトカム評価：TRACE 研究

石氏 陽三[1]、Ahmed Ameen[2]、Pierre-Andre Becherel[3]、Cory Rubin[4]、Abel Jarell[5]、Alessandra Narcisi[6]、Michael Cork[7]
[1]東京慈恵会医大、[2]NMC Specialty Hospital、[3]Antony Hospital、
[4]Michigan Dermatology Institute、[5]IRCCS Humanitas Research Hospital、
[6]Humanitas University、[7]Sheffield Children's Hospital

33 実臨床下で頭頸部病変を有するアトピー性皮膚炎患者に対するトラロキヌマブの国際コホート研究の解析：TRACE 研究

杉浦 一充[1]、Marni Wiseman[2]、Fatima Albreiki[3]、Andrew Pink[4]、Adrian Rodriguez[5]、Diamant Thaci[6]
[1]藤田医大、[2]SKiNWISE DERMATOLOGY、[3]Tawam Hospital、
[4]St John's Institute of Dermatology, Guy's and St Thomas' Hospitals、[5]Nashville Skin、
[6]University of Lubeck

34 実臨床下で手足に病変を有するアトピー性皮膚炎患者でのトラロキヌマブの国際コホート研究における有効性：TRACE 研究

萩野 哲平[1]、April Armstrong[2]、Adrian Rodriguez[3]、Abel Jarell[4]、Pierre-Andre Becherel[5]、Elena Pezzolo[6]、Jose Juan Pereyra Rodriguez[7]、Diamant Thaci[8]
[1]日本医大千葉北総病院、[2]David Geffen School of Medicine at UCLA、[3]Nashville Skin、
[4]allCUTIS Research, Inc.、[5]Antony Hospital、[6]San Bortolo Hospital、
[7]University of Sevilla、[8]University of Lubeck

14:00～15:00　一般演題 6【薬疹・中毒疹】

座長：鳥居 秀嗣（東京山手メディカルセンター）
河原 由恵（けいゆう病院）

35 ラモトリギンによる薬剤過敏性症候群（DIHS）の 1 例

桜井 隆喜、井上 華那、須永 知里、山口 文太郎、保坂 浩臣、渡辺 秀晃
昭和医大横浜市北部病院

36　エンホルツマブ ベドチンの皮膚障害と鑑別を要した、ペムブロリズマブによる多型滲出性紅斑重症型の 1 例
鈴木 彩華[1]、脇 裕磨[1]、荒巻 佳祐[1]、勝田 倫江[2]、朝比奈 昭彦[2]
[1]東京慈恵会医大柏病院、[2]東京慈恵会医大

37　ステロイド外用のみで改善したエンホルツマブ ベドチンによる皮膚障害の 1 例
山口 文太郎、須永 知里、桜井 隆喜、井上 華那、保坂 浩臣、渡辺 秀晃
昭和医大横浜市北部病院

38　総合感冒薬内服後に急性汎発性発疹性膿疱症を呈した 1 例
眞鍋 るみ子[1]、須藤 上治[1]、佐藤 弘明[1]、寺田 七子[1]、濱中 美希[1]、新山 史朗[1]、横内 幸[2]、高橋 啓[2]、福田 英嗣[1]
[1]東邦大医療センター大橋病院、[2]東邦大医療センター病理診断科

39　肝細胞癌に対して、デュルバルマブ、トレメリムマブ投与後に生じた皮膚障害の 1 例
野口 真凜[1]、帆足 俊彦[1]、大谷 咲貴[1]、石原 諒[1]、神武 航[1]、鈴木 健太[2]、厚川 正則[2]、佐伯 秀久[1]
[1]日本医大、[2]日本医大消化器・肝臓内科

40　ウシ筋肉系蛋白質感作が疑われた職業性牛肉アレルギーの 1 例
佐藤 禎子[1]、葉山 惟大[1]、梅村 啓史[2]、野口 有希子[3]、曽川 一幸[3]、藤田 英樹[1]
[1]日本大、[2]日本大臨床検査医学科、[3]麻布大生命・環境科学部

41　急性発症の口唇・口腔粘膜障害により診断されたメトトレキサート中毒の 3 例
竹山 みなみ、板垣 翔大、石塚 友記子、山本 崇広、吉留 佳代、奥野 聡、端本 宇志
防衛医大

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー 6【乾癬診療の守破離～患者に応じた最適な治療戦略とは～】

座長：武市 拓也（名古屋大）
足立 真（関東労災病院）

AS6-1　乾癬治療における Tildrakizumab：遅れて現れた抗 IL23-First in Class 製剤
飯塚 一（旭川医大名誉教授/札幌乾癬研究所顧問）

AS6-2　チルドラキズマブで始める乾癬バイオ治療
萩野 哲平（日本医大千葉北総病院）

共催：サンファーマ株式会社

16:30～17:30　教育講演 8【皮膚科の救急医療】

座長：出光 俊郎（上尾中央総合病院）
入澤 亮吉（東京医大）

EL8-1　緊急対応が必要な危ない症状の見分け方　膨疹、紅斑、紫斑、潰瘍などの症状別　危険な兆候
沢田 泰之（東京都立墨東病院）

EL8-2　皮膚科救急の Tips & Pitfalls
林 寛之（福井大附属病院救急科総合診療部）

17:40～18:40　イブニングセミナー 2
【Bio/JAKi Naïve 患者さんへサイバインコという選択肢】

座長：門野 岳史（聖マリアンナ医大）
伊藤 友章（東京医大）

ES2-1　皮膚バリアから考えるアトピー性皮膚炎の病態と治療戦略―多層的バリア破綻とアブロシチニブの臨床的位置付け―
伊東 可寛（慶應義塾大）

ES2-2　アトピー性皮膚炎における皮膚バリア機能の重要性とサイバインコによる長期疾患コントロール
福本 毅（京都府立医大）

共催：ファイザー株式会社

第 7 会場　4F 扇

9:30～10:30　一般演題 7【上皮系腫瘍、皮膚付属器腫瘍①】

座長：須山 孝雪（獨協医大埼玉医療センター）
帆足 俊彦（日本医大）

42　体幹に生じた Warty Dyskeratoma の 2 例
大石 真子、唐川 大、茂木 拓位、冨田 日出瑠、延山 嘉眞、梅澤 慶紀、朝比奈 昭彦
東京慈恵会医大

43　脂腺母斑に乳頭状汗管嚢胞腺腫と基底細胞癌を生じた 1 例
安久津 育美[1,2]、岸 晶子[1]、川嶋 久雄[1]、吉田 亜希[1]、林 伸和[1]
[1]虎の門病院、[2]東京大

44　肛門管癌との鑑別を要した肛門周囲基底細胞癌の 1 例
文 セン[1]、齋藤 隆太[1]、田沼 剛[1]、巻口 萌[1]、西澤 綾[1]、後藤 啓介[2]
[1]都立駒込病院、[2]都立駒込病院病理科

45　臨床的に悪性黒色腫を疑った色素性肛門腺癌の 1 例
上野 眞一[1,2]、小坂 祐子[1]、石崎 真由[1]、中島 理子[1]、齋藤 暢胤[1]、狩野 龍之介[1]、
小澤 直也[2]、岡田 拓久[2]、安田 正人[1]、茂木 精一郎[1]
[1]群馬大、[2]群馬大消化管外科

46　乳管癌術後に胸部乳房外パジェット病が顕在化した 1 例
肥後 祥可[1]、兵頭 麻里[1]、高杉 亜里紗[1]、岡本 譲二[2]、長村 義之[3]、石橋 正史[1]
[1]日本鋼管病院、[2]日本鋼管病院乳腺外科、[3]日本鋼管病院病理診断科

47 陰部および左腋窩に多中心性発症を認めた乳房外 Paget 病の 1 例
田中 美菜穂、石川 秀幸、金村 亜美、小菅 綾子、浅井 知佳、山川 浩平、山口 由衣
横浜市立大

48 外陰部乳房外 Paget 病と Fibroepithelioma of Pinkus が合併した 1 例
関山 竜五[1]、上原 治朗[1]、青木 佐由美[1]、前田 拓哉[1]、石月 翔一郎[1]、後藤 啓介[2]、
秋谷 昌史[2]、北野 滋久[3]、吉野 公二[1]
[1]がん研究会有明病院、[2]がん研究会有明病院病理部、
[3]がん研究会有明病院先端医療開発科

10:30～11:30 一般演題 8【上皮系腫瘍、皮膚付属器腫瘍②】

座長：上原 治朗（がん研究会有明病院）
宮垣 朝光（聖マリアンナ医大）

49 足底に生じた基底細胞がんの 1 例
藤野 三奈[1]、三崎 春香[1]、永田 遼[1]、小猿 幸希子[1]、福満 祥子[1]、八木田 隼啓[1]、
小倉 香奈子[1]、長野 徹[1]、下間 亜由子[2]
[1]神戸市立医療センター中央市民病院、[2]アユ形成外科・皮膚科　兵庫県神戸市

50 脂漏性角化症と基底細胞癌の所見が混在してみられた色素性有茎性腫瘍の 2 例
伊藤 紗衣[1]、宮本 樹里亜[1]、栗原 佑一[1]、皆川 茜[1]、石崎 純子[1]、梅垣 知子[1]、
伊東 慶悟[2]
[1]東京女子医大足立医療センター、[2]日本医大武蔵小杉病院

51 若年時の脳腫瘍に対する放射線治療後 30 年以上を経て発症した多発基底細胞癌の 1 例
井手 努、唐川 大、末綱 鈴佳、久穂 尚子、松崎 大幸、延山 嘉眞、朝比奈 昭彦
東京慈恵会医大

52 ニボルマブを投与した遠隔転移を伴う基底細胞癌の 1 例
山内 優美[1,2]、宜野座 淳善[1]、牧内 泰文[2]、尾崎 峰[2]、大山 学[1]、水川 良子[1]
[1]杏林大、[2]杏林大形成外科

53 ニボルマブが一時奏効した G-CSF および PTHrp 産生有棘細胞癌の 2 例
石月 翔一郎[1]、青木 佐由美[1]、関山 竜五[1]、前田 拓哉[1]、上原 治朗[1]、後藤 啓介[2]、
秋谷 昌史[2]、吉野 公二[1]
[1]がん研究会有明病院、[2]同病理部

54 強度変調放射線療法（IMRT）＋ニボルマブ投与により奏功した右前頭部有棘細胞癌の 1 例
平良 喬彌、森 章一郎、酒井 良樹、堀崎 健、武市 拓也
名古屋大

55 当院における上皮系皮膚悪性腫瘍に対するニボルマブの治療経験
小竹 久美子、陣内 駿一、石井 徹、鈴木 結梨佳、宮崎 朗、高橋 聡
国立がん研究センター東病院

11:50～12:50　ランチョンセミナー 6【遺伝性血管性浮腫（HAE)】

座長：福田 知雄（埼玉医大）

LS6-1　遺伝性血管性浮腫を見逃さない―診断と早期治療のポイント―
葉山 惟大（日本大）

LS6-2　～HAE 治療の新展開：経口オンデマンド薬がもたらす患者の変化～
林 周次郎（獨協医大埼玉医療センター）

共催：科研製薬株式会社

13:00～14:00　一般演題 9【上皮系腫瘍、皮膚付属器腫瘍③】

座長：梅林 芳弘（東京医大八王子医療センター）
三浦 圭子（東京科学大病理部）

56　低 IgG 血症を背景に発症した HPV67 陽性多発 Bowen 病
井野 ちおり[1]、井上 卓也[1]、江川 形平[2]、杉田 和成[1]
[1]佐賀大、[2]鹿児島大

57　ボリコナゾール投与患者に発症した多発有棘細胞癌の 4 例
山本 崇広、竹山 みなみ、木納 美芙佑、曽田 朋子、奥野 聡、端本 宇志
防衛医大

58　腎移植後免疫抑制下に生じ、Muir-Torre 症候群との鑑別に苦慮した MSH2/MSH6 欠失 Sebaceous borderline neoplasm の 1 例
今村 太一、今村 由香里、今村 朋子、今村 英一
今村皮膚科形成外科　山口県宇部市

59　右下顎角部紅色結節から診断した Muir-Torre 症候群の 1 例
牧野 有希、樋口 麻那美、津田 貴子、川邉 瑠璃子、桒野 嘉弘
帝京大溝口病院

60　ALPK1 遺伝子変異解析が診断補助として有用であったらせん腺腫の 1 例
碇 真雄[1]、宮垣 朝光[1]、大池 信之[1]、門野 岳史[1]、平木 翼[2]、後藤 啓介[2]
[1]聖マリアンナ医大、[2]静岡がんセンター

61　Wnt/β-catenin-activated rosette-forming carcinoma（WARFC）の 2 例
梶本 真帆[1,2]、盛山 吉弘[2]、明石 巧[3]、三浦 圭子[4]
[1]筑波大、[2]土浦協同病院、[3]土浦協同病院病理、[4]東京科学大病理

62　Sister Mary Joseph's nodule を呈した原発不明癌と卵巣成熟奇形腫の 2 例
亀井 理央、立野 優紀子、大西 佳穂、唐川 大、延山 嘉眞、朝比奈 昭彦
東京慈恵会医大

14:00～15:00　一般演題 10【皮膚付属器疾患】

座長：出来尾 格（東京慈恵会医大）
木下 美咲（杏林大）

63　クローン病に対するウパダシチニブ開始後に軽快した集簇性ざ瘡の 1 例

高田 真衣、臼居 駿也、中嶋 千紗、藤井 一恭、大塚 篤司
近畿大

64　全身に生じた好酸球性膿疱性毛包炎（太藤病）の 1 例

刀祢 直樹、岸 晶子、片岡 茜、都築 美輝、林 伸和
虎の門病院

65　抗 CD20 抗体療法後または継続中に円形脱毛症を発症した 3 例

入間田 萌花、髙橋 岳浩、山本 惇、岡﨑 俊樹、高橋 拓矢、瀬川 優里恵、
千葉 倫子、志藤 光介、髙橋 隼也、浅野 善英
東北大

66　重症円形脱毛症成人患者におけるバリシチニブの長期有効性及び安全性：BRAVE-AA 1/2 試験 最長 5 年データ

西川 裕美子[1]、R.A. Vleugels[2]、B Piraccini[3]、N Mesinkovska[4]、A Mostaghimi[2,5]、
Y Shimomura[6]、A Sontag[1]、F McSwiney[1]、H Pandey[1]、K Denning[1]、B King[7]
[1]Lilly、[2]Brigham＆Women's Hosp、[3]Private Practise、[4]Univ. of Cal Irvine、
[5]Harvard Med School、[6]Yamaguchi Univ.、[7]Derma Physicians CT

67　円形脱毛症に対するリトレシチニブの有効性および安全性の検討：単施設後ろ向き観察研究

鍬開 裕仁[1]、今西 久幹[1]、今西 明子[2]、廣保 翔[1]、鶴田 大輔[1]
[1]大阪公立大、[2]大阪市立総合医療センター

68　保険診療で十分な改善が得られなかったざ瘡・酒さに対する低温大気圧プラズマ（アルゴン/窒素）照射の使用経験

石田 和加
わか皮ふ科クリニック　新潟県上越市

69　青少年円形脱毛症患者におけるバリシチニブの有効性に対する重症度/疾患経過の影響：BRAVE-AA-PEDS 試験結果から

大山 学[1]、B Craiglow[2]、B.M. Piraccini[3]、J Soung[4]、L Rudnicka[5]、D Saceda-Corralo[6]、
A Sontag[7]、Y Dutronc[7]、H Pandey[7]、K Singh[7]、L Arkin[8]
[1]杏林大、[2]Yale Univ.、[3]Private Practice、[4]SoCal Derm、[5]Med Univ. of Warsaw、
[6]Univ. Hospital Ramon y Cajal、[7]Lilly、[8]Univ. of Wisconsin School of Med.

15:20～16:20　アフターヌーンセミナー 7【膿疱性乾癬の治療戦略】

座長：大久保 ゆかり（東京医大）
新井 達（聖路加国際病院）

AS7-1　汎発性膿疱性乾癬の臨床的多様性と治療戦略
岸本 恵美（自治医大）

AS7-2　膿疱性乾癬における IL-36 シグナルとスペソリマブ―診断から治療導入までの実際―
多田 弥生（帝京大）

共催：レオ ファーマ株式会社

16:30～17:30　教育講演 9【糖尿病性足病変：フットケアの実際】

座長：高山 かおる（済生会川口総合病院）
久道 勝也（下北沢病院）

EL9-1　創傷・虚血・感染・神経障害から診る糖尿病性足病変―皮膚科医は何をみるべきか
太田 真由美（東京慈恵会医大）

EL9-2　糖尿病足病変への実践的アプローチ―保存的治療と専門治療の選択―
菊池 恭太（下北沢病院）

17:40～18:40　イブニングセミナー 3【アトピー性皮膚炎治療 Update 2026】

座長：三上 万理子（横浜西口菅原皮膚科）
菊池 りか（宮林医院）

ES3-1　臨床試験や自験例に学ぶ、イブグリースを用いたアトピー性皮膚炎の治療戦略
―IGA による重症度評価―
勝田 倫江（東京慈恵会医大）

ES3-2　患者負担軽減を見据えた治療選択：イブグリース Q4W 投与の意義
鎌田 昌洋（帝京大）

共催：日本イーライリリー株式会社

第 8 会場　3F グレース

9:30～10:25　一般演題 11【悪性黒色腫①】

座長：並木 剛（東京科学大）
中村 善雄（慶應義塾大）

70　全摘標本で Atypical Spitz tumor と初期診断後、局所再発およびリンパ節転移をきたした小児悪性黒色腫の 1 例
新川 紗由香[1]、中村 康儀[1]、佐藤 葵[1]、平井 郁子[1]、角田 梨沙[1]、中村 善雄[1]、
長竹 茉奈[2]、永尾 圭介[1]、舩越 建[1]
[1]慶應義塾大、[2]埼玉病院

71 無色素性病変に広範な腫瘍細胞の進展を認めた acral melanoma in situ
中島 光子、稲吉 咲穂、井野 ちおり、稲吉 大地、井上 卓也、杉田 和成
佐賀大

72 局所再発を繰り返した右中指悪性黒色腫におけるフィールドセルに関する検討
角 総一郎、安藤 貴代、杉原 夏子、佐藤 篤子、神谷 浩二、大槻 マミ太郎、
小宮根 真弓
自治医大

73 気管支転移に対する放射線照射により放射線肺臓炎をきたした右上背部悪性黒色腫の1例
高井 彩也華[1]、山浦 真衣子[1,2]、阿部 夏実[1]、奥山 奈津子[1]、鹿島 慶子[1]、小高 愛莉奈[1]、
井上 禎夫[1]、中村 泰大[1]
[1]埼玉医大国際医療センター、[2]昭和医大

74 ニボルマブによる術後補助療法中に発症した難治性 irAE 大腸炎に対し 5-ASA 製剤とベドリズマブ投与が必要となった悪性黒色腫の1例
青木 佐由美[1]、上原 治朗[1]、関山 竜五[1]、前田 拓哉[1]、石月 翔一郎[1]、武田 孝一[2]、
北野 滋久[3]、吉野 公二[1]
[1]がん研究会有明病院、[2]がん研究会有明病院腫瘍リウマチ膠原病科、
[3]がん研究会有明病院先端医療開発科

75 悪性黒色腫の治療前に眼症状を発症、ICI・BRAF-MEK 阻害薬で遷延した Vogt-小柳-原田病様ぶどう膜炎の1例
梶間 諒[1]、澤田 楓[1]、田中 諒[1]、荒木 梨沙[2]、内田 敦郎[2]、慶野 博[3]、稲積 豊子[1]
[1]立川病院、[2]立川病院眼科、[3]杏林大付属病院眼科

10:25～11:30 一般演題 12【悪性黒色腫②、色素異常症、母斑症】

座長：吉田 和恵（国立成育医療研究センター）
脇 裕磨（東京慈恵会医大柏病院）

76 当科において免疫チェックポイント阻害薬による術後補助療法を行った悪性黒色腫 23 例の免疫関連有害事象と治療効果の検討
前田 拓哉[1]、青木 佐由美[1]、関山 竜五[1]、石月 翔一郎[1]、上原 治朗[1]、武田 孝一[2]、
北野 滋久[3]、吉野 公二[1]
[1]がん研究会有明病院、[2]同腫瘍リウマチ膠原病科、[3]同先端医療開発科

77 当院における重症免疫関連有害事象（irAE）後に免疫チェックポイント阻害薬（ICI）を再投与した 6 症例の検討
石井 徹、陣内 駿一、鈴木 結梨佳、小竹 久美子、宮崎 朗、高橋 聡
国立がん研究センター東病院

78 10 年以上の長期無病期間を経て再発した悪性黒色腫 11 例の後方視的解析
井上 達人[1]、瀬下 治孝[1]、宮崎 梨香子[1]、栗崎 道賢[1]、加瀬 美咲[1]、鹿毛 勇太[1]、
中野 英司[1]、岸川 さつき[2]、森 泰昌[2]、並川 健二郎[1]
[1]国立がん研究センター中央病院、[2]国立がん研究センター中央病院病理診断科

79 実臨床におけるリキッドバイオプシーの検討
中野 英司、井上 達人、宮崎 梨香子、栗崎 道賢、加瀬 美咲、瀬下 治孝、
鹿毛 勇太、山崎 直也、並川 健二郎
国立がん研究センター中央病院

80 Q スイッチルビーフェイシャルの臨床的有用性についての経験（第 1 報）
西堀 公治[1,2]、尾本 大輔[1,2]、西堀 真依[1,2]、鈴木 茉友[1,2]、渡邊 晶子[2]
[1]西堀形成外科　愛知県名古屋市、[2]西堀レーザークリニック東京院　東京都中央区

81 Q スイッチアレキサンドライトレーザー、ピコ秒レーザーで加療した太田母斑 177 例の後ろ向き観察研究
林 明澄、福田 理紗、田中 諒、持丸 奈央子、橋本 玲奈、吉田 和恵
国立成育医療研究センター

82 慈恵医大病院における神経線維腫症 1 型患者の臨床的特徴の包括的検討
今井 聡子、太田 有史、延山 嘉眞、朝比奈 昭彦
東京慈恵会医大

11:50～12:50 ランチョンセミナー 7

座長：谷崎 英昭（関西医大）

LS7 改訂蕁麻疹診療ガイドライン 2026 のポイント解説と蕁麻疹の病型別治療戦略
福永 淳（大阪医科薬科大）

共催：田辺ファーマ株式会社/帝國製薬株式会社

13:00～14:05 一般演題 13【膠原病】

座長：安藝 良一（北里大）
三井 純雪（聖路加国際病院）

83 エトスクシミドによる薬剤誘発性ループスの 1 例
荒巻 佳祐[1]、安田 健一[1]、平福 啓一伍[1]、野々山 葉月[2]、脇 裕磨[1]
[1]東京慈恵会医大柏病院、[2]東京慈恵会医大柏病院小児科

84 抗 TIF1-γ 抗体陽性皮膚筋炎の経過中に慢性骨髄性白血病（CML）を発症した 1 例
岩永 佳菜子[1,2]、中西 佑以子[1]、宮野 恭平[1]、常深 祐一郎[1]、坂本 朋之[3]
[1]埼玉医大、[2]東京大、[3]埼玉医大血液内科

85 皮疹を伴う抗 OJ 抗体陽性の抗 ARS 抗体症候群の 1 例
吉田 有瑳、永野 知佳、飯田 玲美、山田 友莉香、干場 健生、鈴木 大介
相模原病院

86 オンライン診療下で診断が遅延し、紅皮症化した抗 SAE 抗体陽性皮膚筋炎の 1 例
中村 創、乙竹 泰、小松 彩子、北畠 友美、袋 幸平、渡邊 友也、山口 由衣
横浜市立大

87 小細胞肺癌と間質性肺炎を合併した抗 TIF1-γ 抗体および抗 SS-A/Ro52 抗体陽性皮膚筋炎の 1 例
平松 佑一[1]、河瀬 ゆり子[1]、山本 博紀[1]、荒井 弘侑[2]、増田 渉[3]
[1]同愛記念病院、[2]同愛記念病院呼吸器内科、[3]同愛記念病院病理診断科

88 乾癬様皮疹と仙腸関節炎を呈した IgG4 関連疾患の 1 例
辻 麗生[1]、宮本 大介[2]、柴原 純二[3]、浦山 佳織[1]、小林 里実[1]
[1]聖母病院、[2]聖母病院内科、[3]聖母病院病理診断科

89 演題取り下げ

14:05～15:00 一般演題 14【肉芽腫症、代謝・形成異常】

座長：加藤 峰幸（東京都立多摩総合医療センター）
林 周次郎（獨協医大埼玉医療センター）

90 免疫チェックポイント阻害薬投与後に出現した苔癬型サルコイドーシスの 1 例
佐藤 真由、山本 俊幸
福島県立医大

91 比較的大型の局面を形成し、自然退縮した若年性黄色肉芽腫の 1 例
荻原 紀美佳[1]、濱田 利久[1]、林 雄一郎[2]、藤井 克則[3]、菅谷 誠[1]
[1]国際医療福祉大成田病院、[2]国際医療福祉大成田病院病理診断科、
[3]国際医療福祉大成田病院小児科

92 複数の異なるタイプの特異疹を呈した皮膚サルコイドーシス 23 例の検討
向山 竜人、山本 俊幸
福島県立医大

93 TGFB3 遺伝子同義変異によるスプライシング異常により発症した、血管病変を伴わないロイス・ディーツ症候群の 1 例
山本 美玲、林 周次郎
獨協医大埼玉医療センター

94 Sjögren 病に合併した限局性 AL アミロイドーシスの 1 例
天野 菜々美[1]、吉田 傑[1]、竹中 祐子[1]、黒堀 ゆう子[2]、吉澤 佐恵子[3]、篠原 明仁[4]、
瀬尾 幸子[4]、山上 淳[1]
[1]東京女子医大、[2]東京女子医大膠原病リウマチ内科、[3]東京女子医大病理診断科、
[4]東京女子医大血液内科

95 痛風結節の摘出後に高熱と全身の関節痛が生じた痛風発作の 1 例
武部 由理奈[1]、熊谷 晴菜[1]、小粥 悠里江[1]、立石 陽子[2]、林 宏行[2]、蒲原 毅[1]
[1]横浜市立市民病院、[2]横浜市立市民病院病理診断科

15:20〜16:20 アフターヌーンセミナー 8
【IL-17 受容体抗体の可能性〜患者さんに適した治療戦略を探る〜】

座長：藤本 学（大阪大）
乃村 俊史（筑波大）

AS8-1 IL-17 を介した尋常性乾癬の病態とルミセフによる制御
澤田 雄宇（産業医大）

AS8-2 PASI100 のその先へ―患者視点から考えるブロダルマブの臨床的意義―
大嶋 雄一郎（愛知医大）

共催：協和キリン株式会社

16:30〜17:30 教育講演 10【小児と高齢者の皮膚疾患】

座長：馬場 直子（神奈川県立こども医療センター）
植木 理恵（順天堂大順天堂東京江東高齢者医療センター）

EL10-1 小児の皮膚疾患
玉城 善史郎（埼玉県立小児医療センター）

EL10-2 高齢者の皮膚疾患―痒みに注目して―
種井 良二（東京都健康長寿医療センター）

17:40〜18:40 イブニングセミナー 4
【難治性白斑にどう向き合うか　―診療科を超えて作り上げる新治療―】

座長：鈴木 民夫（大森駅前皮膚科）

ES4-1 尋常性白斑の診療戦略アップデート―外用療法からジャスミンまで、その最適化について―
堺 則康（東京医大）

ES4-2 メラノサイト含有自家培養表皮ジャスミンの移植の実際
松村 一（東京医大形成外科）

共催：株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

HS 会場① 42F 高尾

13:30～15:00 **ハンズオンセミナー 1【真菌症原因菌の検鏡の仕方～基礎から応用まで～（白癬、カンジダ、癜風、脂漏性皮膚炎の検鏡方法）】**

オーガナイザー・演者・術者：清 佳浩（帝京大溝口病院）

HS1

チューター：楊 彩佳（帝京大溝口病院）
竹花 麻己（帝京大溝口病院）
村岡 怜奈（帝京大溝口病院）
石川 真理奈（帝京大溝口病院）

協力：持田ヘルスケア株式会社

16:40～18:40 **日本皮膚科学会　キャリア支援委員会企画　メンター＆メンティーの相談会（M&M）**

講演の部：16：40～17：40

演題 1　医師の知りたい「労働法規」と「お金」の話～自分を「守る」ための知識～
平野 翔大（産業医・産婦人科医）

演題 2　日常診療から考える美容皮膚科―大学病院・基幹病院だからこそできること―
角田 加奈子（岩手医大附属病院）

相談会の部：17：40～18：40

HS 会場② 42F 富士

13:00～15:00 **ハンズオンセミナー 2【レーザー治療を始めよう！良性皮膚疾患治療に用いる色素レーザー】**

座長：未定

HS2

演者・術者：国本 佳代（和歌山県立医大）

企画協力・機器提供：株式会社ジェイメック

16:40～18:40 **ハンズオンセミナー 3【レーザー治療を始めよう！良性皮膚疾患治療に用いる炭酸ガスレーザー】**

座長：長谷川 敏男（順天堂大静岡病院）

HS3

演者・術者：竹内 かおり（恵比寿駅前皮膚科　東京都渋谷区）

企画協力・機器提供：株式会社ジェイメック